



松田産業株式会社

2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年11月25日

イベント概要

[企業名]	松田産業株式会社
[企業 ID]	7456
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期
[日程]	2021 年 11 月 25 日
[ページ数]	19
[時間]	13:30 – 14:00 (合計：30 分、登壇：27 分、質疑応答：3 分)
[開催場所]	103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-6-1 日経茅場町別館 B1 第 1 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	238 m ²
[出席人数]	50 名
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 松田 芳明 (以下、松田) 取締役副社長 對馬 浩二 (以下、對馬)

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

執行役員 IR 部長

田中 善則（以下、田中）

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：それでは、定刻となりましたので、ただ今から、松田産業株式会社様の第 73 期 2022 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。

まず最初に、当社からお迎えしております三名様をご紹介します。代表取締役社長、松田芳明様、取締役副社長、對馬浩二様、執行役員 IR 部長、田中善則様。本日は代表取締役社長、松田様、執行役員、田中様、このお二方からご説明をいただきます。ご説明いただいたあと、質疑応答のお時間を取らせていただきます。

なお、皆様のお手元の資料の中にアンケート用紙が入っていると思います。こちらにつきましては、お手すきのときにご記入いただきますようお願いいたします。それではどうぞ、よろしくお願いいたします。

松田：松田産業株式会社、代表取締役社長、松田でございます。これより当社第 73 期 2022 年 3 月期第 2 四半期の決算説明をさせていただきます。

本日は皆様、大変お忙しい中、当社決算説明会にお越しいただき誠にありがとうございます。また、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症に対して、従業員ならびに関係する全ての皆様の安全を最優先に考え、感染防止に努めながら事業活動を継続してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



○ 連結業績 (2022年3月期/上期)

単位：億円

	21/3期上期 (前期)	22/3期上期 (当期)	前年同期比 増減(率)		21/3期通期 (前期)	22/3期通期 (当期予想)	前期比 増減予想(率)	
売上高	1,116	1,360	+243	+21.8%	2,315	2,600	+284	+12.3%
営業利益	36	72	+36	+98.1%	80	122	+41	+51.8%
営業利益率	3.3%	5.3%	+2.0pt	—	3.5%	4.7%	+1.2pt	—
経常利益	36	78	+41	+112.7%	83	130	+46	+55.3%
税引前利益	40	78	+38	+94.4%	87	—	—	—
四半期純利益	27	54	+27	+99.9%	60	91	+30	+49.2%

- ・ 2022年3月期上期の業績は、貴金属関連事業、食品関連事業ともに取扱数量が想定を上回り前年同期比増収増益を達成。
- ・ 上期の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は、過去最高の実績。
- ・ 通期の業績予想は、上期の増収増益等を踏まえ、前回発表予想から上方修正。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用し、売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.



3

それでは、これより 2022 年 3 月期第 2 四半期の決算概要についてご説明いたします。

2022 年 3 月期第 2 四半期決算の連結業績数値の概要でございます。

当連結累計期間の売上高は、貴金属関連事業、食品関連事業ともに取扱数量が想定を上回り、前年同期比 21.8%増収の 1,360 億円となりました。営業利益は、前年同期比 98.1%増益の 72 億円となり、経常利益では、補助金収入ならびに当社が 30%の株式を保有します日鉄マイクロメタルの持分法投資利益などを含み、前年同期比 112.7%増益の 78 億円となりました。

これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比 99.9%増益の 54 億円となり、上期の売上高、各利益ともに過去最高の実績となりました。2022 年 3 月期の上期の連結業績に関する概略は、以上のとおりでございます。

ここで、11 月 5 日に公表いたしました業績予想をあらためてお伝えいたします。2022 年 3 月期の通期の連結業績の予想につきましては、売上高は 2,600 億円、営業利益は 122 億円、経常利益は 130 億円、当期純利益は 91 億円とし、通期の業績予想においても、売上高、各利益ともに過去最高を目指してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



○ セグメント別の業績 (2022年3月期/上期)

貴金属関連事業

※セグメント別売上は外部売上高を使用しております。

単位：億円

	21/3期上期 (前期)			22/3期上期 (当期)			前年同期比増減	
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計		
売上高	337	392	730	497	469	967	+236	+32.4%
営業利益	13	19	32	34	24	59	+26	+80.7%
営業利益率	3.9%	4.9%	4.5%	6.9%	5.3%	6.1%	+1.6%pt	-

- ・売上高は、前年同期比32.4%増収。営業利益は、前年同期比80.7%増益。
- ・電子部品デバイス分野の生産活動が回復傾向により、貴金属リサイクル取扱量及び金製品・銀製品等の販売量が増加。
- ・全体的な貴金属相場が上昇。
- ・産業廃棄物の処理は、処理受託が増加。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は44億円減少、営業利益は1億円減少しております。

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.



4

次に、セグメント別の業績をご説明いたします。初めに、貴金属関連事業になります。

当事業の売上高は、前年同期比 32.4%増収の 967 億円、営業利益は、前年同期比 80.7%増益の 59 億円となりました。

当事業の主力顧客でありますエレクトロニクス業界では、半導体不足に伴う自動車市場などの生産低下に懸念があるものの、スマートフォン市場の回復や、5G の進展に伴う通信インフラの整備拡大などを背景に、電子部品デバイス分野の生産活動が回復傾向であることから、当社グループの貴金属リサイクルの取扱量および金製品・銀製品などの販売量増加に加え、全体的な貴金属相場の上昇もありましたので、前年同期に比べ大幅な増収増益となりました。

なお、環境事業につきましては、産業廃棄物の当社の処理受託取扱量は増加いたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



セグメント別の業績 (2022年3月期/上期)

食品関連事業

※セグメント別売上は外部売上高を使用しております。

単位：億円

	21/3期上期 (前期)			22/3期上期 (当期)			前年同期比増減	
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計		
売上高	197	189	386	203	189	393	+6	+1.7%
営業利益	2	1	4	7	5	13	+9	+239.7%
営業利益率	1.5%	0.5%	1.0%	3.8%	3.1%	3.5%	+2.5pt	-

- ・売上高は、前年同期比1.7%増益。営業利益は、前年同期比239.7%増益。
- ・業務用食品の需要低下や資源価格の上昇により、厳しい市場環境。
- ・多様化する顧客ニーズに応えた商品開拓と安全・安心な商品の安定供給により水産品、畜産品、農産品の販売数量の増加。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は43億円減少、営業利益に影響はありません。

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.



5

次に、食品関連事業でございます。

当事業の売上高は、前年同期比 1.7%増益の 393 億円となり、営業利益は前年同期比 239.7%増益の 13 億円となりました。

当事業の主力顧客であります食品製造業界では、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による業務用食品の需要低下や資源価格の上昇などから、厳しい状況になりました。その中で当社グループは、多様化する顧客ニーズに応えた商品開拓と安全・安心な商品の安定供給により、水産品、畜産品、農産品の販売量は増加となりました。

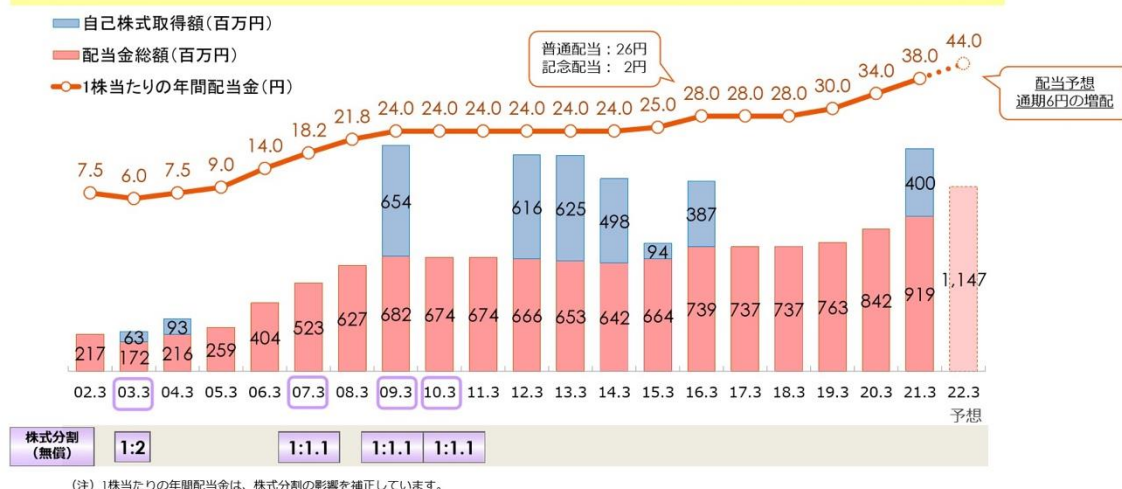
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



株主還元

成長投資のための内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主様への安定かつ持続的な配当を実施する事により、株主様の期待に応えてまいります。
 なお、配当については、通期で6円増配の44円を予想しており、**4期連続の増配**となります。



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.

6

株主還元についてご説明いたします。

当社は、成長性を捉えた事業機会への最適な資源配分、財務健全性の確保、株主還元のバランスを考慮して、持続的な企業価値の向上を目指すことを資本政策の基本方針としております。その中で、株主還元につきましては、安定かつ持続的な配当を実施することにより、株主様の期待に応えてまいります。

2022年3月期の配当金につきましては、中間配当金は22円とし、期末配当金も22円を予定しております。通期では前期に比べ6円の増配予定となります。これにより、配当については4期連続の増配予定となります。

皆様からのよりいっそうのご支援をお願い申し上げ、私からのご説明は以上とさせていただきます。引き続き、IR部より決算内容の詳細、設備投資の状況などについてご説明いたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

- ・ 連結貸借対照表
- ・ キャッシュ・フロー計算書
- ・ セグメント別の売上高、営業利益
- ・ 通期の業績予想
- ・ 設備投資の状況



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

田中：IRを担当しております執行役員の田中でございます。ここからは、ご覧いただいておりますとおり、連結貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、セグメント別の売上高ならびに営業利益の概要、通期の業績予想、最後に設備投資の状況につきまして、ご説明させていただきます。

○ 連結貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

(連結)	21.3期末	21.9期末	増減	主な増減要因
流動資産	764	775	+11	現預金+23、受取手形/売掛金+7、未収入金+7、その他流動資産+10、棚卸資産▲38
固定資産	277	279	+1	新規設備等
資産合計	1,042	1,055	+12	
流動負債	293	248	▲ 44	短期借入金▲36
固定負債	93	85	▲ 7	
うち有利子負債	172	127	▲ 45	
負債合計	386	334	▲ 52	
純資産合計	656	721	+65	
負債純資産合計	1,042	1,055	+12	
自己資本比率	62.8%	68.2%	-	
	20.9期	21.9期	増減	
営業キャッシュ・フロー	45	84	+39	
投資キャッシュ・フロー	▲ 16	▲ 11	+4	
フリーキャッシュ・フロー	28	72	+43	

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.



8

初めに、連結貸借対照表のご説明をいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



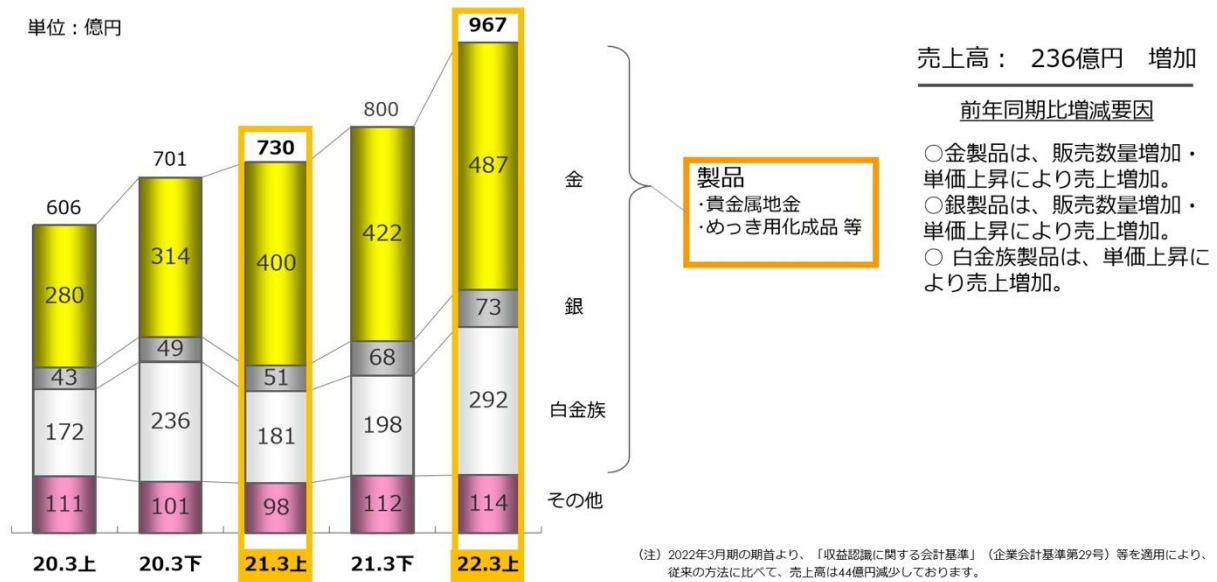
資産につきましては、現金および預金、受取手形および売掛金、未収入金ならびにその他流動資産の増加と、棚卸資産の減少がございましたので、そちらとの差し引きによって、流動資産は11億円の増加となっております。また、固定資産は生産設備機械の新設などにより1億円増加したため、総資産では、前期末に比へまして12億円ほど増加いたしまして、1,055億円となっております。

負債につきましては、短期借入金の減少36億円などによって、流動負債が44億円減少しておりますので、合計では、前期末に比べて52億円減少の334億円となりました。

純資産につきましては、主に期末配当金の支払いを上回りまして利益剰余金が増加したこと等により、前期末に比へまして65億円増加し721億円となっております。なお、この利益剰余金の増加には、当期の期首から収益認識基準等の適用を行っております。これに伴いまして、期首の調整2億円が含まれております。

キャッシュ・フローでございますけども、ご説明いたしました業績および貸借対照表の状況から、ご覧のとおり結果となっております。業績が好調ということもございまして、営業キャッシュ・フローは、前年同期間と比へまして増加しているということでございます。

品目別売上高の推移<貴金属関連事業>



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.

9

続きまして、セグメントごとの売上内容につきまして少しご説明させていただきます。

まず、貴金属関連事業になります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

当事業の売上高は、貴金属地金ならびに化成品などの当社が製造しております製品が、全体の約9割を占め、金、銀、白金族の製品に分類されますので、その内容を中心にご説明させていただきたいと存じます。

貴金属関連事業の2022年3月期第2四半期累計期間の連結売上高は、前年同期比32.4%増加の967億円となりましたが、その内訳をご覧いただいているとおり、グラフにまとめております。

金製品の売上高につきましては、当事業の売上高の5割強を占めておりますが、前年同期比で22%増加しまして、487億円となりました。

この内容は、当社グループの主力顧客であります電子部品デバイス分野の好調と、国内外における積極的な営業展開、営業活動を行いましたことによって、貴金属リサイクルの取扱量が増加しております。また、当社製品への需要も非常に旺盛となりましたことから、販売数量も増加いたしました。加えまして、金相場の上昇に伴い、単価の上昇も重なりましたことから、売上高が大幅に増加した内容でございます。

次に、銀製品の売上高につきましても、前年同期比で45%ほど増加いたしまして、73億円となりました。金製品同様に、数量の増加に加えて相場上昇に伴う単価の上昇、こちらも寄与いたしまして、売上高が増加したものでございます。

続きまして、白金族製品になりますけれども、こちらも売上高は、前年同期比で62%ほど増加の292億円となっております。電子部品デバイス分野や触媒市場からの貴金属リサイクルの取扱量も増加してございますが、パラジウムやロジウム等の相場上昇に伴います単価の上昇、こちらが大きく寄与した売上高の増加ということになります。

その他の売上高にも少し触れておきますと、こちらの中に含まれております産業廃棄物処理の収入でございますけれども、新型コロナウイルスの影響から改善してございまして、処理の受託は増加いたしました。その結果、その他売上高につきましても、わずかではございますけれども増加しております。

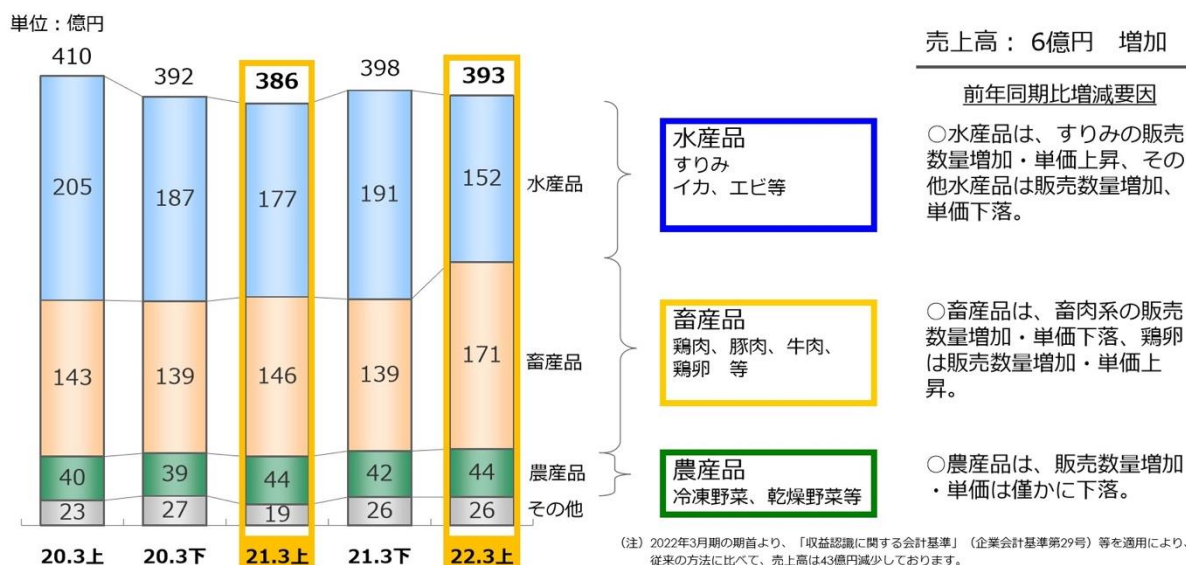
なお、貴金属関連事業の営業利益につきましては、後ほど補足させていただきますが、数量増加などに伴う売上高の増加に加えて、貴金属相場の上昇を受けた価格影響、こちらも含んで、売上総利益が増加して、販管費、人件費などの増加はございましたが、前年同期に比べて増益という結果になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



品目別売上高の推移 <食品関連事業>



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

10

次に、食品関連事業の売上高をご説明いたします。

当事業の売上高は、前年同期比 1.7%増加の 393 億円となりましたが、ご覧いただいているグラフにその内訳をまとめております。なお、収益認識基準等の当期からの適用により、食品関連事業では 43 億円の減少として、売上高に一部影響をしております。

まず、水産品でございますが、水産品の売上高は 152 億円となりまして、前年同期比 14%ほどの減少となっております。しかしながら、こちらは数量面では非常に順調に推移してございまして、この売上高の減少は、先ほど述べましたとおり収益認識基準等の適用による影響の大半がこの水産品であったということがございましたので、そういったことからの減少ということになります。

次に、畜産品でございますが、畜産品の売上高は 171 億円となりまして、前年同期比 17%ほどの増加となりました。鶏卵、畜肉ともに数量の増加が寄与し、一部、鶏卵などで単価上昇もございましたので、売上高が大幅に増加しております。

最後、農産品になりますが、農産品の売上高につきましては、前年同期比 2%ほど増加の 44 億円となりました。コロナ禍において、サプライチェーンにやはり混乱が見られる中で、品質や安定供給力といったような当社の強みを生かして、冷凍野菜や乾燥野菜、こちらの数量を伸ばすことができましたので、単価はわずかに下落いたしました。全体での売上高が増加したという結果でございます。

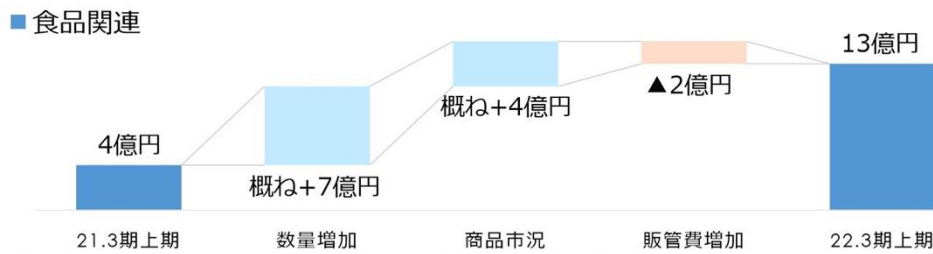
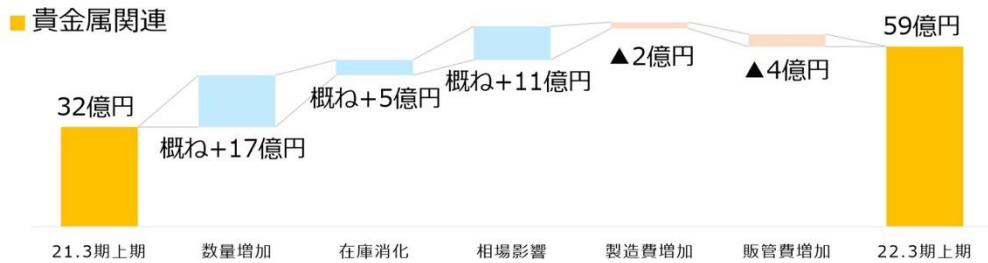
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

なお、食品関連事業の営業利益につきましても、後ほど少し補足させていただきますが、売上高の増加と、一部の商品市況の好転に伴う利益率の上昇などございましたので、売上総利益が増加し、前年同期に比べ増益という結果になっております。

○ 営業利益の概要



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.

11

ここで、その営業利益の概要につきまして、この当第2四半期累計期間におきましては、若干一過的な要因も含みまして、前年同期比大幅な増益になっていることも踏まえまして、セグメントごとに少し補足させて説明させていただきたいと思っております。

貴金属関連事業につきましては、営業利益が前年同期比で約26億円増加しておりますが、これは売上総利益での増加、約30億円。これが寄与したものでございます。この売上総利益の増加の主な要因でございますけれども、ご覧いただいているところでもございますが、取扱数量の増加によるもののほかに、前期末の在庫の消化による利益化、この影響がおおむね5億円程度含まれていたと思っております。

また、パラジウムやロジウムといった白金族等の貴金属相場の上昇によります影響、こちらとして約11億円がございました。この在庫の消化や相場影響、こちらは主に第1四半期で積み上がったものでございまして、こちらは一過的な要因と見ております。

減価償却費など製造費用等において2億円ほど増加しましたが、これらを吸収して、売上総利益は約30億円といった大幅な増加になった結果でございます。販管費につきましては、人件費や燃料

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

費など全体で約4億円ほど前年同期から増加しておりますが、そちらも吸収して、営業利益が順調に増加しているということになります。

次に、食品関連事業になりますが、当第2四半期累計期間におきましては、営業利益が前年同期比で約9億円増加しております。売上総利益では11億円ほどの増加となっておりますが、こちらも数量増加に加えまして、畜産品などの一部商材におきまして、これは一過性と考えられます市況の好転、こちらが見られた結果、価格的影響として利益の積み増しがございました。おおむね4億円の影響があったと見ております。

また、食品関連事業におきましても、販管費では、人件費や燃料費などを中心に2億円ほど増加しておりますが、先ほどの売上総利益の増加といったところで吸収されて、全体としては営業利益の増加という形になっております。

以上のように、貴金属関連、食品関連、両セグメントともに一過的と思われる要因も含めまして、前年同期比、大幅な増益となっております。

連結決算の業績推移と2022年3月期通期予想



2022年3月期通期見通しを上方修正

2022年3月期上期において、両事業ともに取扱数量が想定を上回ったことや、貴金属相場の上昇の影響、食品関連事業における一部商品の市況の好転に伴う価格上昇により、業績が予想を上回ったことと、下期におけるリスク等も考慮した上、通期連結業績予想を上方修正。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.

12

2022年3月期の見通しにつきましてご説明いたします。

貴金属関連事業につきましては、主力顧客でありますエレクトロニクス業界の電子部品デバイス分野などの生産状況、こちらは引き続き好調に推移するものと予想しております。その中で、当社グループでは、高機能電子材料や化成品等の製商品の販売、および貴金属リサイクル原料回収の拡大

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

に向け、顧客ニーズに対応して事業の差別化を進め、業容の維持拡大を図ってまいりたいと考えております。

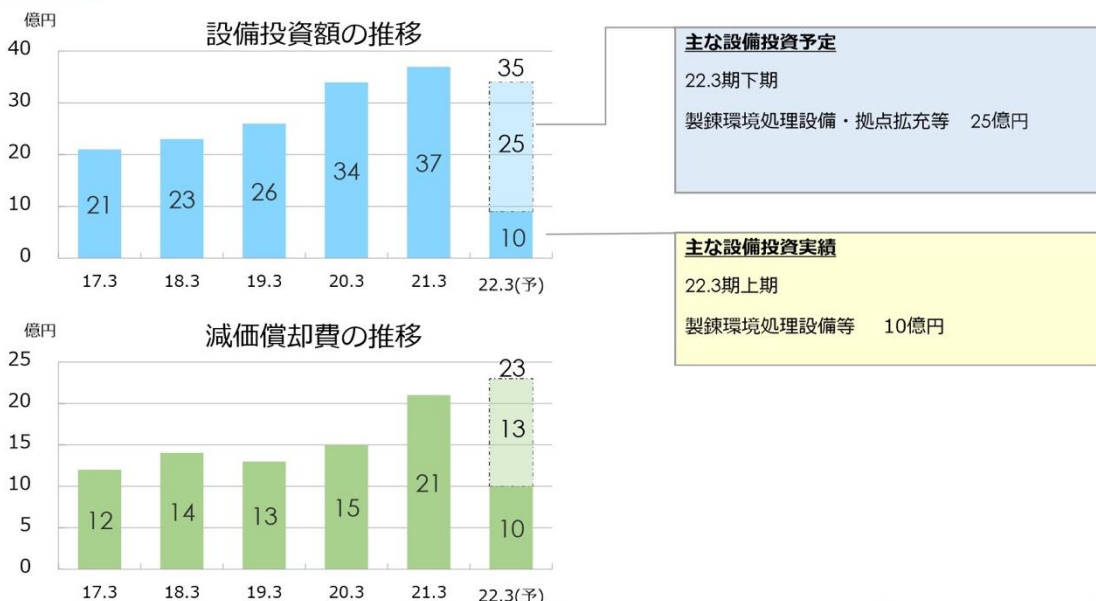
当事業の通期の業績見通しでは、売上高 1,827 億円、営業利益 99 億円を予想しておりますが、下期では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う海外の主要顧客の一時的な生産低下や、白金族等の貴金属の相場下落、こちらの影響等も考慮した見通し内容ということになっております。

国内外における新規顧客の獲得、シェアアップによります貴金属リサイクルの取扱量や製商品の販売量の拡大、また、産業廃棄物の処理受託取扱量の改善などによって達成に向け努めてまいりたいと考えております。

次に、食品関連事業でございますけども、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、原料燃料価格の上昇やコンテナ不足といったようなことに伴います、輸入コスト上昇等の懸念はございますが、その中で、安全・安心かつ高品質な食品原材料を安定的に供給するといったことで差別化して、業績の改善を進めてまいりたいと考えております。

当事業の通期の業績見通しでは、売上高 773 億円、営業利益 23 億円を予想しておりますが、顧客ニーズに応じた商品ラインナップの拡充に取り組み、海外拠点の活用も含めたグローバル展開を加速いたしまして、販売数量の拡大による達成に向け、努めてまいりたいと考えております。

設備投資の状況



最後になりますが、設備投資の状況につきましてご説明いたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

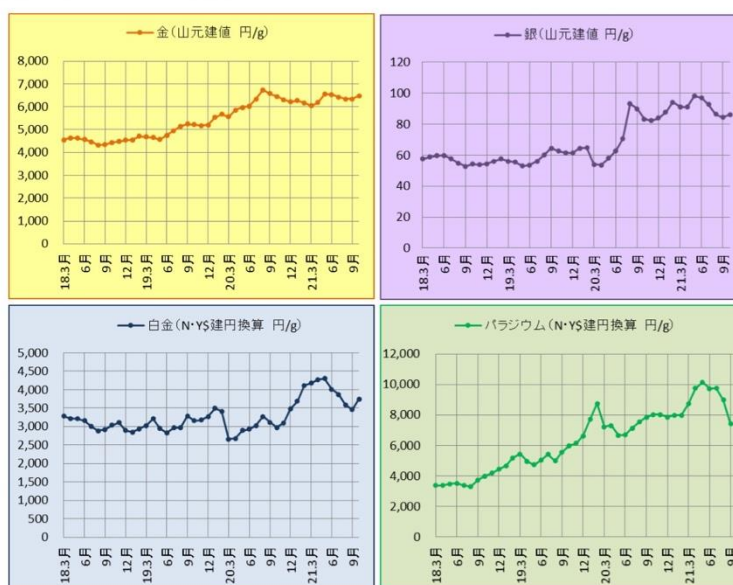


2022年3月期の上期は、生産設備機械等の新規設備の導入や、既存設備の老朽化更新などに約10億円の投資を行っております。また、2022年3月上旬の減価償却になりますが、こちらは前年同期に比べ約5,000万円ほどでございますが、増加しまして10億円ほどとなっております。

通期での設備投資につきましては、老朽化更新なども含む製錬環境処理設備、また、拠点拡充などといったことで、合計約35億円の投資を予定しております。また、減価償却費は、2020年の7月から稼働を開始いたしました関工場の生産設備、こちらが今期通年の償却になることなどございまして、前期比約2億円の増加を見込んでおります。

なお、当期2022年3月期の設備投資は、当初55億円の投資を予定しておりましたが、発注先における人員不足や資材調達の遅延状況が見られてございまして、当社において一部このスケジュールの見直しを行っております。その結果、当初の予定より当期としての投資といたしましては、切り下がった内容となっております。

○ (ご参考) 貴金属相場の推移



Copyright © MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

松田産業株式会社
MATSUDA SANGYO CO., LTD.

14

本日のご説明の資料には、主要な貴金属相場の推移も最後に載せてございますので、ぜひともご参考いただければと存じます。

以上をもちまして、2022年3月期第2四半期の決算に関します会社からの説明は、終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

質疑応答

司会： それでは、質疑応答に入らせていただきます。ご質問なさる方は挙手をお願いいたします。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。従いまして、質問される際、会社名、氏名を名乗っていただいた場合はそのまま公開されます。もし匿名を希望される場合は、氏名は省略していただいて結構です。

それでは、どうぞよろしく申し上げます。いかがでしょうか。せっかくの機会でございますので、ご質問ございましたらどなたかどうぞ。よろしいですか。

特にないようでございますけども、会社様からもし何か追加事項、ございましたらいかがでしょうか。

松田： では、私から。

司会： はい、どうぞ。

松田： 今期につきましては、自己株買い等については特に今のところ実行しておりませんが、ということでも、ということで実質的な総還元性向というのでしょうか。この辺は下がっているわけですが、これにつきましては、今後、業績の推移を見ながら、今後の事業展開を見ながら考えていきたいと思っています。

来年、上期中には、上期の早い段階でおそらく今後の中期計画が出てくると思うのですが、中期計画に関しましても、おそらく新たな企画ですとか、新たな投資、こういうものが出てくると思います。ということで、投資と財務健全性、それから配当のバランス、こういったものを考えながら、今後も経営にあたっていきたいと思っています。

司会： ありがとうございます。念のため、質問どうしてもしておきたいとおっしゃる方いらっしゃいましたら、どうぞ。よろしいですか、特に無いようでございます。

それでは、以上をもちまして、本日の決算説明会を終了いたします。どうもありがとうございました。なお、このあとの名刺交換ですが、3密回避の観点から、会社様の要請により名刺交換はなしとさせていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

[了]

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

